

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年「わたしの英語教育実践」	第5学年 外国語科(7月) NEW HORIZON Elementary 5(東京書籍) Unit 6 What would you like?
②教科書を活用した授業づくりの工夫	大垣市立中川小学校 5年担任 山岸 佳代

「こんなことができるようになりたい!」単元のゴールを示し、目的意識をもたせた指導

	活動	児童の姿、反応
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の料理や食文化の多様性に触れる。</li> <li>単元のゴールを知る。</li> </ul> <p>「お家の人が好きランチメニューを考えよう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食べたことあるよ。」「パエリア食べてみたいな。」</li> <li>「他の国では何が有名かな。」<sup>☞</sup>興味を高める</li> <li>「家庭科で献立を考えた。」<sup>☞</sup>他教科での学びを生かす</li> <li>どんなランチを紹介しようかな。<sup>☞</sup>見通しをもつ</li> <li><sup>☞</sup>目的意識を高める</li> </ul>
② ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の Let's Listen, Let's Try の活動を行う。</li> </ul> <p>※聞くだけで終わらず、話す活動にも取り組む。 ※場面や相手を変え、繰り返し使う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「お客さんに注文を聞くときは、What do you want?ではなく、What would you like?と言うのだな。」</li> <li><sup>☞</sup>明示的な説明からではなく、場面や状況から気付く</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級の班を「主食」「主菜」「スープ」「デザート」の4つの担当に分け、それぞれの店のメニューを考え、看板を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>happy meal, power-up meal, healthy meal 等ランチのテーマを設定<sup>☞</sup>目的意識、相手意識を高める</li> </ul>
⑤ ⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>「お店」と「お客」の2つに分かれて、4つの店から集める活動を行う。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>お店役の児童は、相手の考えているメニューについて聞き、それに合うメニューをいくつか紹介する。</li> <li>お客役の児童は、どんな品があるか知らないで、自分のテーマを伝え、分からないことは質問して集める。</li> <li><sup>☞</sup>考えながら話す</li> </ul>
⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤⑥の活動を振り返る。</li> <li>自分のランチメニューを友達に紹介する活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「友達に自分のランチを知ってほしい。」</li> <li>「いつも忙しいお母さんに、時短で食べられる野菜たっぷりのスープでしっかり栄養をとって、いつまでも元気でいてほしい。」<sup>☞</sup>場面、状況、目的、相手意識のある活動の評価</li> </ul>
事後	集めたメニューを家族に紹介し、実際に夏休みの宿題として、考えたメニューの中から1品選んで作り、家族からの感想をもらってきた。 <sup>☞</sup> 事後の活動を設定し、他教科と関連付ける	

店員として食べ物の特徴やお勧めの理由を紹介するときに、「こう伝えたい」と、言いたいけれど言えないときに学んできた形容詞を「形容詞 bank」として掲示しました。

これからも、子どもたちが「伝えたい」という思いを引き出せるような授業になるように、教科書を活用しながら活動の工夫をしていきたいです。



言語活動を設定する際に大切なことは、言語活動(コミュニケーション)を行う目的や場面、状況などを設定し、それを子供と共有することです。そうすることで、子供は、その目的を達成するために、どのような内容を話したり聞き取ったりするとよいか、既習語句や表現のうちどれを使えばよいかを考えます。そして、子供がその言語活動に意欲的に取り組むのもう一つ大切なことは、できるだけ「ほんもの」であることです。山岸教諭の実践の「ほんもの」は、実際に考えたメニューのうち1品を実際に家で作り、家族に食べてもらっていることです。

(文部科学省視学官 直山 木綿子)